

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

# Osaka National Hospital News



独立行政法人  
国立病院機構 大阪医療センターニュース

このニュースは、年4回、大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。  
詳しいお問い合わせは地域医療連携室までお寄せください。

No.58  
平成29年11月

## 目次

### 地域医療連携室より

- ・新任及び退職医師のお知らせ ..... 2
- ・講演会のご案内 ..... 2

### 病院のトピックス

- ・第59回おおさか健康セミナー報告 ..... 3
- ・第41回法円坂地域医療連携フォーラムの報告 ..... 5
  
- ・脳卒中・循環器疾患における  
ホットラインのご案内 ..... 7
- ・NHO PRESS  
～国立病院機構通信～について ..... 7



独立行政法人  
国立病院機構

大阪医療センター

地域医療連携室

平成29年11月発行 58号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL.06-6946-3516 ☎0120-694-635 FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/> [E-mail] [comonh@onh.go.jp](mailto:comonh@onh.go.jp)

## ～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

## ～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

### 1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



- 正しく
- 品よく
- 心をこめて

### 2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

### 3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

### 4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

## 新任及び退職医師のお知らせ

### 新任医師

| 異動年月       | 職名       | 氏名    | 異動内容 |
|------------|----------|-------|------|
| H29. 9. 1  | 循環器内科医師  | 栗田 政樹 | 採用   |
| H29. 9. 1  | 小児科医師    | 則武加奈恵 | 採用   |
| H29. 9. 1  | 婦人科医師    | 赤木 佳奈 | 育休復帰 |
| H29. 10. 1 | 脳神経外科専修医 | 寺田 栄作 | 採用   |

### 退職医師

| 異動年月       | 職名       | 氏名    | 異動内容 |
|------------|----------|-------|------|
| H29. 8. 31 | 循環器内科医師  | 横井 研介 | 退職   |
| H29. 9. 30 | 皮膚科医師    | 東郷さやか | 退職   |
| H29. 9. 30 | 脳神経外科専修医 | 中川 智義 | 退職   |

## 講演会のご案内

| 開催日時           | 件名                      | 内容                         | 対象者           |
|----------------|-------------------------|----------------------------|---------------|
| 平成29年11月15日(水) | 2017年度<br>第4回オンコロジーセミナー | 「悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害剤療法」 | 医師及び<br>医療従事者 |
| 平成30年 1月25日(木) | 2017年度<br>第5回オンコロジーセミナー | 未定                         | 医師及び<br>医療従事者 |
| 平成30年 2月 3日(土) | 第61回おおさか健康セミナー          | テーマ：未定<br>担当：口腔外科          | 一般市民          |
| 平成30年 2月17日(土) | 第43回法円坂地域医療フォーラム        | テーマ：未定<br>担当：下部消化管外科・内視鏡室  | 医師及び<br>医療従事者 |
| 平成30年 3月15日(木) | 2017年度<br>第6回オンコロジーセミナー | 未定                         | 医師及び<br>医療従事者 |

**開催場所** 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅⑩号出口すぐ

**問合せ** 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

## 第59回おおさか健康セミナー報告

国立病院機構大阪医療センター 循環器内科 科長 上田 恭敬  
国立病院機構大阪医療センター 心臓血管外科 科長 神 雅之

平成29年6月3日（土）14時から第59回おおさか健康セミナーが大阪医療センター災害医療棟3階講堂において開催されました。今回は循環器内科・心臓血管外科の担当で「動脈硬化」をテーマにし、185名の方にご参加いただきました。循環器内科と心臓血管外科は同じ循環器疾患を扱う内科と外科の関係にあり、日頃から外来・入院診療いずれにおいても綿密な連携のもと診療にあたってきましたが、今回、「心臓血管センター」の名称を掲げることによって、そのことをより理解していただきやすくなったものと考えています。今回のセミナーの内容は、循環器内科からは「心筋梗塞」、「心房細動」、「心不全」について、心臓血管外科からは「大動脈解離」、「冠動脈バイパス手術」についてと、広範な内容の話でしたが、それぞれの話題で最も大切なことやトピックスに焦点を当てたものと致しました。

まずは、循環器内科科長の上田恭敬が「心筋梗塞」について話しました。心筋梗塞は今でも致死率40%の怖い疾患ですが、入院後の死亡率は10%と非常に良好です。すなわち、入院する前に命を落とす人が多く、予防が非常に重要です。幸い、心筋梗塞患者の約半数では、発症の数日～数

週間前に前兆の症状があり、短時間で消失する胸痛や胸部圧迫感、胸焼け様の症状を経験していることが知られています。そのため、その時点で適切に治療すれば、心筋梗塞の発症を防ぐことができます。高血圧、糖尿病、脂質異常症などの病気を十分治療して動脈硬化のリスクを減らすことが第一ですが、せっかくの前兆を見逃さずに受診して治療することが非常に大切です。軽くて短時間で消失する症状でも、今までに経験のないこのような胸部症状が出現すれば、間違っていないので、一度循環器内科を受診して欲しいと思います。

次に、循環器内科医の三嶋剛先生が「心房細動」について話しました。心房細動患者数は年々増加し、現在100万人ともいわれています。多くは動悸症状を伴いますが、無症状でも「脳梗塞」「心不全」という合併症を起こすため要注意です。近年ではカテーテルアブレーション治療により根治も可能となったため、早期発見・早期治療が望ましいと考えられます。短時間の不整脈発作はなかなか検査で捉えきれないため、検脈によって脈の乱れを早く見つけ、医療機関を受診することが推奨されています。



その後、循環器内科医の安部晴彦先生が「心不全」について話しました。心不全の病態について図解で理解して頂いた後、心不全の自覚症状、心不全の原因となる心臓疾患、心不全の検査の概要についてお話しさせて頂きました。最後に心不全の治療についてお話しさせて頂きましたが、内服薬を忘れずに飲んでいること、塩分・水分制限に気を付けること、適度な運動を行っていること、そして毎朝の体重測定が重要であり、自己管理の重要性について理解して頂けたかと思えます。

後半は、まず、心臓血管外科の北林克清先生が「大動脈解離」について話しました。大動脈解離はある日突然発症し、解離が脳や心臓に近い場所の大動脈に及んだ場合、1-2日間で半数以上の方が死に至る怖い病気で、日頃高血圧、動脈硬化の方は気をつけなければなりません。したがって救命のためにはすぐに手術（人工血管置換術）が必要となる場合があります。さらに、一命を取り留めたとしても慢性期に大動脈瘤となり破裂される方もおられます。この場合破裂する前に手術が必要となりますが、当院ではステントグラフトを使用

した低侵襲手術を積極的に行っております。

最後に、心臓血管外科科長の榊雅之先生が「冠動脈バイパス手術」について話しました。心臓を栄養している冠動脈が動脈硬化で狭窄あるいは閉塞し、心筋に血液が十分行きわたらない状態になった場合、まずはカテーテルで冠動脈を広げる治療を試みますが、カテーテル治療が困難なほど重症な病変に対しては外科的に開胸して冠動脈バイパス手術が行われます。バイパス手術に用いられる血管をグラフトといいます。グラフトは患者さん自身の体から採取します。（内胸動脈、橈骨動脈、大伏在静脈など）従来心臓を止めて手術を行っていましたが、近年当院では低侵襲手術である心臓が動いたまま行う心拍動下冠動脈バイパス術を行っており、術後も早期に回復および社会復帰されています。

最後に本セミナーの企画、進行に協力していただいた方々、講演者、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。地域の先生方には今回テーマとして挙げた疾患も含めて、今後とも患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。



# 第41回法円坂地域医療連携フォーラムの報告

国立病院機構大阪医療センター 脳卒中内科 科長 橋川 一雄

平成29年6月24日（土）午後3時から第41回法円坂地域医療連携フォーラムを難波にあるホテルモントレ グラスミア大阪にて開催いたしました。今回は脳卒中内科と脳神経外科が担当しテーマは脳卒中で昨年7月から運用を開始した「大阪医療センター脳卒中センター」のお披露目の会となりました。

第一部は当院内部の2人の演者による一般講演でした。まず、私から大阪医療センター脳卒中センターの概要を説明させていただきました。当院では通常の神経内科ではなく脳卒中を専門とする内科（脳卒中内科）と脳神経外科が共同で脳卒中センターを24時間体制で運営していることを報告しました。虚血性脳卒中に対しては脳卒中内科が中心となりrt-PA静注から血栓回収療法などの血管内治療を含めた高度医療を提供していることを説明しました。一般演題の2題目は、当院脳神経外科科長藤中俊之先生に脳血管障害に対する血管内治療の進歩の話をしていただきました。藤中先生は日本有数の脳神経血管内治療医で、動脈瘤の血管内治療についてコイル充填術から最新のステ

**第41回 法円坂 地域医療フォーラム**

**テーマ 「脳卒中治療の進歩と地域連携」**

日時：平成29年6月24日（土）15：00～17：30  
会場：ホテルモントレグラスミア大阪 21階「スノーベリー」

【司会】 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

1. 開会挨拶 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 院長 是恒 之宏

2. 講演

第一部 一般講演

【座長】 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター長 上松 正明

【大阪医療センター脳卒中センターの紹介】

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

【脳血管障害に対する血管内治療の進歩】

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 脳神経外科 科長 藤中 俊之

第二部 特別講演

【座長】 大阪府中区医師会 会長 前久保 邦昭 先生

【プライマリケア脳卒中～(ABCD)と神経診察～】

近畿大学医学部附属病院 脳卒中センター 教授 大槻 俊輔 先生

3. 閉会挨拶 独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター副院長 中森 正二

※講演を収録しております。  
※演題はご参加いただいた医師のみなさまにもご自身の演題をテーマとさせていただきます。  
※ご参加いただいた医師もご自身の診療の自主的発展および患者・市民に対する情報提供の為に利用させていただきますこととなります。併せて「医療」に関する記事も掲載させていただきます。

共催：独立行政法人国立病院機構大阪医療センター/第一三共株式会社

ント型の動脈瘤治療デバイスであるflow diverterまで詳細な技術の進歩をご紹介していただきました。会場にいる多くの先生にとって初めて聞く話で有り、この分野の進歩に驚かれた先生も多かったらうと思います。以上の一般演題にて、当院脳卒中センターが地域脳卒中治療の中核的役割を果たすべく努力していることをお伝えできたのではないかと思います。

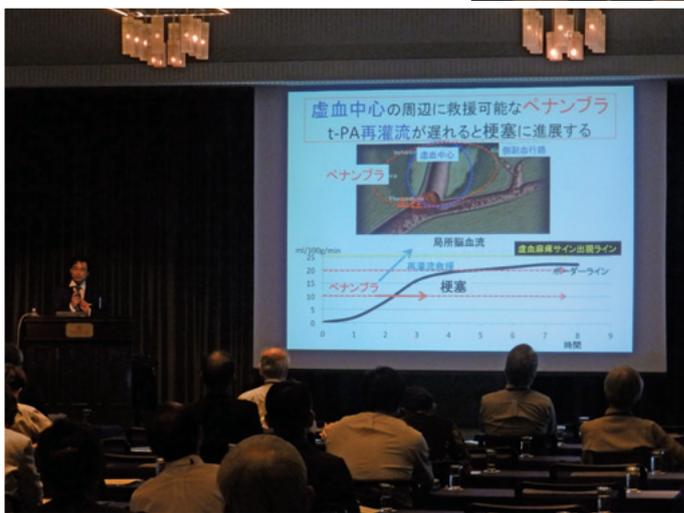


一般講演終了後の休憩時間に、当院の臨床研究センター長の上松先生、下部消化管外科の加藤先生など新しい医師の紹介をさせていただきました。

第二部の特別講演は、近畿大学医学部附属病院脳卒中センター教授 大槻俊輔先生に「プライマリーケア脳卒中～(ABCD)<sup>2</sup>と神経診察～」のタイトルでお話しをさせていただきました。大槻俊輔先生は昭和61年神戸大学卒業後、星ヶ丘厚生年金病院、八尾市立病院、大阪大学医学部附属病院、米国国立衛生研究所、国立循環器病研究センター、広島大学病院を経て現職に就かれています。専門は脳卒中や神経疾患救急であり、地域にいつでもどこでも安心安全な救急医療を提供することを目標に脳卒中地域連携や卒後教育に従事されています。大槻先生には一般開業医の先生に脳卒中の症状、とくにどんな症状を認めたときに脳卒中セン

ターなど専門医へ紹介をすべきかをわかりやすく説明していただきました。プライマリーケアにおけるABCD、TIAのABCD2scoreなど多くの要点を4つの注意点ABCDとして説明され、語るような独特の話ぶりの講演に最初から引き込まれてしまいました。症状の説明にはご自身が登場されるスライドを多く使われユーモアあふれる講演でした。会終了後に脳卒中を専門としてない先生方にも非常にわかりやすかったと大変好評でした。

これまで6月のフォーラムはシティプラザ大阪で近隣医療施設との交流会の兼ねた会として行ってきました。今回は遠いところにも関わらず多数先生にご参加いただき有り難うございました。また、共催いただきました第一三共株式会社に感謝いたします。



# 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構  
**大阪医療センター**

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

**06-6946-3544**

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

**06-6946-3543**

脳血管疾患24時間対応します。

## NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



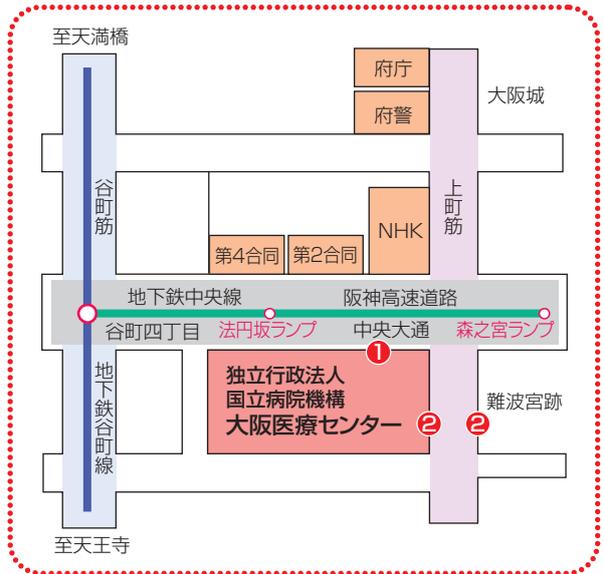
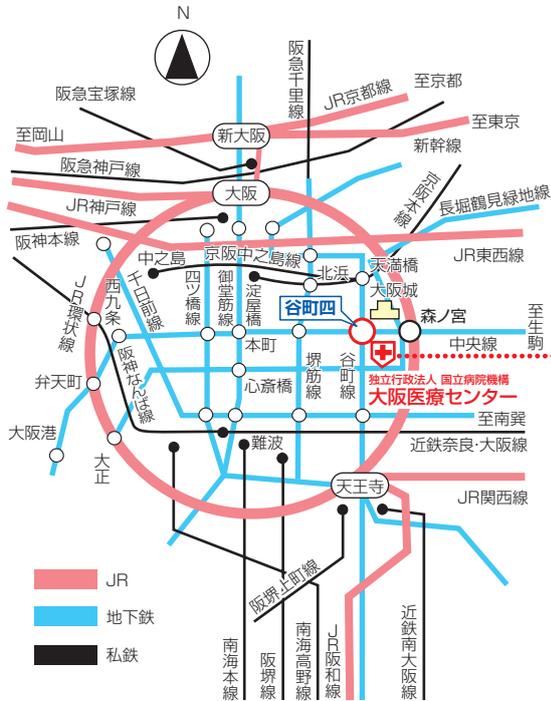
NHO PRESS

検索

QRコード



# 交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

## ■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

## ■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

## ■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

## ■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。

・新病院建設工事の為、入口は中央大通り沿い（北側）、出口は西側の一方通行となっておりましたが、平成29年5月1日より出入口は上町筋（東側）になります。

・北側入口は封鎖されますのでご了承下さい。